2026_0503「北軽井沢のキジ」日々の理科 4284 号

お茶の水女子大学　サイエンス＆エデュケーション研究所　田中　千尋

・

北軽井沢の春の牧草地で、ひときわ鮮やかな姿を見せていたのが、日本の国鳥でもあるキジのオスです。まだ浅間山麓に春の気配が満ち始めた草原を、堂々と歩くその姿は、まるで自らの存在を誇示するかのようでした。キジのオス成鳥は、青緑色に輝く頭部と首、銅色の羽、そして長い尾羽を持つたいへん美しい鳥ですが、春の繁殖期には、顔の周囲にある赤い「肉垂（にくすい）」がさらに鮮やかさを増します。この赤色は、健康状態や強さを示す重要な信号であり、メスへの力強いアピールであると同時に、他のオスへの威嚇の意味も持っています。まさに春は、キジのオスたちにとって縄張りを守り、次世代を残すための真剣勝負の季節なのです。

そのため、この時期のオスは赤い色に非常に敏感になることがあります。ライバルの赤い顔を連想させるためか、時にはキジ以外の赤いものにも反応し、威嚇や追跡行動を見せることがあります。郵便配達員の赤いバイクがキジに追いかけられるという、少しユーモラスな光景が話題になることもあります。しかし、当のキジにとっては至って真剣で、それだけ春の繁殖本能が強く働いている証でもあります。

やがて春がさらに進むと、草むらの中には地味な褐色のメスが、小さな雛たちを何羽も連れて歩く姿が見られるようになります。今、鮮烈な赤を輝かせるこのオスの姿は、北軽井沢の春を象徴する、生命の躍動そのものなのです。　（2026 年 5 月上旬／北軽井沢）